

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-540	24-309	慶應義塾大学名誉教授 加藤眞三
題名 (原題/訳)		
Impacts of rifaximin and midodrine on morbidity, mortality, and quality of life in patients with decompensated liver cirrhosis リファキシミンとミドドリンが非代償性肝硬変患者の罹患率、死亡率、生活の質に及ぼす影響		
執筆者		
Maha Mohammad Elsabaawy <sup>1</sup> , Medhat Assem <sup>1,2</sup> , Hanaa Badran <sup>1</sup> , Asmaa Mahmoud <sup>3</sup> , Dalia Elsabaawy <sup>4</sup> , Amr Ragab <sup>1</sup>		
掲載誌		
Eur J Gastroenterol Hepatol. 2024 年 8 月 1 日;36(8):1022-1028. doi: 10.1097		
キーワード	PMID	
ミドドリン、リファキシミン、肝硬変、非代償性肝硬変	38973543	
要 旨		
<p><b>背景：</b>血管拡張と細菌性腹膜炎は、代償不全肝硬変（DLC）患者における致命的な事象の主な要因である。</p> <p><b>目的：</b>本研究の目的は、DLC 患者におけるミドドリンとリファキシミンの併用が、罹患率、死亡率、および生活の質に及ぼす影響を評価することである。<b>方法：</b>この介入臨床試験には、連続的に登録された DLC 患者 100 名が 1:1 の比率で 2 群に無作為に割り付けられた。A 群は、標準的な利尿療法に加えて、経口ミドドリン（5 mg/8 時間）およびリファキシミン（550 mg/12 時間）を投与され、B 群は標準的な利尿療法のみを受けた。McGill Quality of Life Questionnaire を含む臨床・検査データを 3 ヶ月間の治療期間にわたり評価した。</p> <p><b>結果：</b>研究群では、2、6、12 週目に Child-Pugh スコア、Model for End-Stage Liver Disease スコア、国際標準化比（INR）、平均動脈血圧の有意な減少が認められた（<math>P &lt; 0.05</math>）。対照群と比較し、12 週後には腹水、自然発生性細菌性腹膜炎の発生率、吐血、腹腔穿刺の必要性、肝性脳症が改善を示した。McGill Quality of Life Questionnaire は 6 週後および 12 週後に有意に改善した（<math>P &lt; 0.05</math>）。生存率は顕著な改善を示し（<math>P = 0.014</math>）、単変量および多変量回帰分析の両方でその証拠が裏付けられた。</p> <p><b>結論：</b>ミドドリンとリファキシミンの併用療法は、DLC 患者に対し、合成肝機能の顕著な改善、生活の質の向上、生存率の向上をもたらす有益な治療法である。</p>		